

世界は出会いで出来ている

長尾 洋

プロフィール
1981年神奈川県生まれ。アーティスト。名古屋造形芸術大学卒業。「僕は未来の先住民」をテーマに、コラーージュを使った作品をニューヨーク、ロサンゼルス、東京、パリなど世界各都市で展示。名古屋PARCOとのコラボレーション、JRA中京競馬場年間ホスターのイラスト制作を手がけるほか、アメリカのアーティストフェアSCOPE Miami BeachやLA Art Showに出品。UNIQLOクリエイティブアワードなどで作品が入選している。

子供の頃は、昆虫採集、お絵かきやレゴ、工作に夢中だった。小さな角材を見つけると釘と金槌で十字に打ち付け飛行機を作り、いろんな角度に傾けては宙に飛ばす格好をしてみせた。身の回りにある素材で作る。これは私がよく使っているコラーージュという技法の基礎となったようだ。しかし大人になっていくら作品制作に没頭しようとも、当時の好奇心と熱量には敵わない。

そんな私は以前、五年半ほどドイツ・ベルリンを拠点にしていたこともあり、現地ヨーロッパ人だけでなく、世界各国の人たちと触れ合ってきた。人びとが縦横に行き交う様を見ると、未来は一体どうなるのだろうか、私には父方の曾祖母にアイヌ人がいることもあり、普通に日本で生活していたら気にも留めぬことに途轍もない興味が湧いてきた。

約二〇〇万年前に誕生したとされる我々の祖先はアフリカから世界各地へと散らばり、様々な発展を遂げた。しかしこの現代社会が取りまく世界はますます統一化され、さらにもう数百年もすれば、多様な固有の文化はすべて博物館のガラス越しにしか見ることができなくなるのではと思ったりもする。昨今の森林伐採で消滅の危機に瀕しているアマゾンの先

住民も私たちのなかの誰かだと思おうと、他人事ではない。残念ではあるがこれもまた現生人類の営みだとすれば、世界の流れを止めるのは容易ではない。

このモヤモヤする気持ちを晴らすため、現在でも近代化される以前の姿を残す先住民に会いたいと思つた私は、二〇一六年にはメキシコへ古代文明と豊かな色彩のルーツを探りに行き、二〇一七年はナミビアのヒンバ、ヘレロ、デンバの三部族を訪ね、そして翌年にはモンゴルのゲルでホームステイをし、自然と共存する彼らのもっと貴重な体験を沢山させてもらった。どの地域も英語はほとんど通じず、身振り手振りで会話をし、出されたものはなんでも食べた。今年にはインドのアートフェスティバルにも招待された。一八もの州公用語が使われ、様々な民族と宗教、文化で成り立つ社会はまるで世界の縮図を見ているようだった。気になることはすぐに本やネットで調べるようになったが、やはり実体験ほど心に刺さるものはない。「僕は未来の先住民」と付けたテーマも、直接的な交流が減っている現代人に本能回帰してもらいたいと思つたからだ。きつとエキサイティングな未来がやってくると信じて、私は今日も道具と素材を手に作品づくりに打ちこむのである。

月刊 みんな

10月号目次

1	エッセイ 千字文 世界は出会いで出来ている 長尾 洋	12	みんなく Information
2	特集 メキシコのアルテ・ポプラル 百花繚乱のアルテ・ポプラルへのいざない 鈴木 紀	14	想像界の生物相 鷲の王ジャタユ 福岡 正太
4	メキシコ人の愛する骸骨人形 小林 貴徳	16	みんなく回遊 ラピタ土器と鋸歯印文 小野 林太郎
5	メキシコ先住民ウィチョルの毛糸絵 山森 靖人	18	シネ倶楽部 M 人生の驚きと不思議に心打たれる映画 ——「ワンダーストラック」 飯泉 菜穂子
7	オアハカのカジェ（街路）とアート 山越 英嗣	20	ことばの迷い道 「青野菜」は青色？ 磯部 大吾
8	アルテ・ポプラルを収集した先達たち 鈴木 紀	21	次号予告・編集後記
10	〇〇してみました世界のフィールド 厳肅で、愉しげな、ハンティのクマ遊び 大石 侑香		